

2024 年度

大学院工学研究科（博士後期課程）

名古屋工業大学・エアランゲンニュルンベルク大学
国際連携エネルギー変換システム専攻

入 試 概 要

名古屋工業大学大学院工学研究科（博士後期課程）では、ドイツのエアランゲンニュルンベルク大学（FAU）とのジョイントディグリー（JD）プログラム「国際連携エネルギー変換システム専攻」の設置を計画しており、2024年4月からの入学者受入れに向け、現在、設置準備を行っているところです。

本専攻では、エネルギー変換システムに係る関連分野における優れて高度な専門知識及び能力を有し、国際社会における価値観の変容や科学技術の進歩など様々な変化を柔軟に受け入れてその先を見通し、自己の将来像を踏まえて技術者・研究者の視点で本質的な課題を見出し、新たな価値を創造して協奏的に社会を変革する人材を育成します。なお、本専攻では1年間程度相手大学に滞在し、研究指導を受けることを予定しています。

この入試概要は、現在の改組計画に沿って作成したものであるため、今後、計画に変更が生じた場合は、それに伴い内容を変更することがあります。

2024年4月入学者の入試は、改組計画が認められた後に本学公式ホームページで発表する学生募集要項（2023年7月上旬発表予定）により実施しますので、出願にあたっては、必ず同募集要項を確認の上、手続を行ってください。

2023年4月

国立大学法人 名古屋工業大学

1 募集専攻及び募集人員

募 集 専 攻	募 集 人 員	
	名古屋工業大学	エアランゲンニュルンベルク大学
名古屋工業大学・エアランゲンニュルンベルク大学 国際連携エネルギー変換システム専攻	2名	2名

注1 志願者は、名古屋工業大学、エアランゲンニュルンベルク大学のいずれかに出願しますが、名古屋工業大学へ出願した志願者は、名古屋工業大学において入学試験を受験することとなります。この場合、入学手続、授業料等の納付、奨学金の申請等に関して、名古屋工業大学で取り扱います。

注2 本国際連携エネルギー変換システム専攻において、名古屋工業大学とエアランゲンニュルンベルク大学を併願することはできません。

2 出願要件

修士の学位又は専門職学位を有する者又は2024年3月31日までに修士の学位又は専門職学位を取得見込みのもの

3 入試日程

事 項	期 日
出願期間	2023年7月25日～27日
口述試験・面接	2023年8月23日
合格発表	2023年9月8日

(注) 出願にあたっては、あらかじめ指導を希望する教員と研究内容や出願について相談してください。

4 選抜方法

入学者の選抜は、口述試験、面接、修士論文等の審査及び成績証明書を総合して判定します。

(1) 口述試験（英語による）

提出された修士論文等について、プレゼンテーションを行い、研究内容及び専門知識について質問します。

(2) 面 接（英語による）

研究意欲、人物等を見ます。

注：本選抜において求められる英語能力は、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）でB2レベル程度。

(対応する公的な英語検定試験での目安例)

○ TOEFL - iBT : 72点 ○ IELTS (アカデミック) : 5.5点

○ TOEIC L&R : 785点 ○ 実用英語技能検定 : 準1級

5 問い合わせ先

この入試概要に関する照会は、Eメール又は電話等で行ってください。

〒466-8555 名古屋市昭和区^{ごきそちょう}御器所町

名古屋工業大学 入試課

電話 052 (735) 5083

F A X 052 (735) 5084

Eメール ni t.nyushi@adm.nitech.ac.jp

エアランゲンニュルンベルク大学（FAU）とは

エアランゲンニュルンベルク大学（正式名称：Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg, 以下「FAU」という。）は1743年に設立され、バイエルン州第3の規模を誇るドイツを代表する名門大学の一つである。工学部（Faculty of Engineering）の設置は1966年と比較的新しく、産学協同など他機関との連携が活発で、2019年には「イノベーション・ランキング（ロイター）」で世界14位、国内1位にランキングされた。工学部の学生数（学部・修士）は約1万人で、女性および国際学生比率はともに約25%となっており、博士授与者は190名（2021年）である。また、「THE世界大学ランキング2022年」で世界197位、「上海ランキング」分野別では「エネルギー科学&工学」が世界40位として評価されている。同大学は国際化を強く推進しており、世界中に500を超える提携校を持ち、日本の文化・歴史を学ぶ日本学科も設置されている。また、マックスプランク研究所、フラウンホーファー研究所などがキャンパス傍にあり、基礎と応用の両面で連携（アン-インスティテュート）が強く、Siemens社をはじめ産業界との繋がりも強い。

本学とFAUは、2009年の部局間交流協定、2011年の大学間交流協定（MOU）締結以降、長年にわたって交流を継続しており、これまでの延べ派遣数は教職員163名・学生116名、受入数は教職員44名・学生21名（2022年9月現在）を数え、活発な交流と共同研究を続けている。この間、2013年に本学のヨーロッパ事務所を同大学内に開設（2021年にFAU連携事務所に改称）し、両大学間の連携体制を強化するとともに、日本学術振興会「日独共同大学院プログラム」の採択を受け、2020年に博士後期課程に係る共同研究指導プログラム「日独共同エネルギー変換システムプログラム」を本学内に開設し、両大学間の教育連携・研究交流を加速させている。加えて、EU エラスムス・プラス協定に基づき、両大学の学生・教職員の相互派遣が2022年から開始され、全学的に幅広い教育の機会が提供可能となっている。